

第3回 福山市学校教育環境検討委員会 概要

【日時】 2025年（令和7年）6月5日（木） 18:30～20:40

【場所】 市役所本庁舎3階 大会議室

【出欠】 出席17人 欠席2人

◎委員長、○副委員長

出	◎伊澤 幸洋	福山市立大学教育学部教授	出	橋本 秀基	福山市公立小学校長会会長
欠	森 美智代	福山市立大学教育学部教授	欠	新谷 陽子	福山市公立中学校長会
出	○佐々木 伸子	安田女子大学理工学部 建築学科教授	出	土利川 佳保	福山市保育施設保護者会 連合会会長
出	山岡 英樹	福山市自治会連合会副会長	出	小鼓 悠	福山市私立幼稚園PTA連合会
出	久保 辰己	福山市自治会連合会常任理事	出	菅田 雅夫	福山商工会議所副会頭
出	高杉 清志	福山市連合民生・児童委員 協議会副会長	出	金山 節津	市民公募
出	佐藤 正	福山市交流館長会幹事	出	亀山 マリエ	市民公募
出	野田 寿雄	福山市PTA連合会会長	出	佐藤 有香	市民公募
出	三木 智恵	福山市PTA連合会幹事	出	花谷 忠厚	市民公募
出	阿部 勉	福山市PTA連合会常任理事			

【概要】

- 1 教育長あいさつ
- 2 報告・説明
第2回検討委員会の概要及び補足説明
- 3 諮問事項についての協議
○これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について
○新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について
- 4 その他

委員から出された主な意見

■学校再編の在り方について

- ・再編後の学校と地域の関わりについて、地域の人がどう感じているのか知りたい。
- ・遺芳丘小学校では、学校再編により校区が広がったことで、学習資源が増え、体験できなかったことが体験できるようになり、それぞれの学校でやっていたこと以上のものが得られた。
- ・地域が広がると人との繋がりが増え、こどもたちの視野が広がる。こどもたちが地域での体験を発信していくことが地域の人には嬉しく、地域にとっても「自分たちの学校の子」という意識が芽生えていくと思う。
- ・加茂小・中学校では、校区が山野・広瀬・加茂となり、学校はどの地域にも出向いて学んでおり、地域を大切にしようとしていることがよく分かる。
- ・意図をもって、意識的に地域を学ぶことで、学校と地域の接続は図られていくのだと思う。
- ・学校から地域にだけではなく、地域でできることを学校に提案するなど、積極的に関わりを作っていくことで、お互いにメリットになるのではないかと考える。
- ・義務教育学校では、独自教科を設け、9年後の最終目標に向かって、何年生でどんな経験をしてどんな力を付けるか、成長の見通しをもち、教科横断的にカリキュラムを組んで取り組める点が他の学校と異なる。

- ・地域との繋がりを大切にする姿勢は、小・中学校も義務教育学校も変わらないと感じている。
- ・敷地面積や児童生徒数、また財政面を考えて、現存の全ての学校が義務教育学校にできるわけではない。義務教育学校は学校再編の一つの選択肢であり、小学校同士や中学校同士の学校再編など柔軟に判断していく必要がある。
- ・学校再編した後、すぐに次の学校再編の議論を始めなければならなくなってしまうので、人口動態を見ながら、多様な選択肢の中の最適解を探っていくことが必要である。
- ・国内の出生数が70万人を割り、こどもの数は増々減少していく。安全に登下校できるようなスクールバス・タクシー等の通学手段を確保した上で、ある程度学区が広がっても、1学年3から4学級程度の児童生徒数は必要と考える。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることのできる教育環境を考える必要があり、中学校においては、部活動ができる一定の人数が必要である。

■学校施設の在り方について

- ・学校のオープン化（地域に開かれた学校）に伴い、セキュリティ面に配慮が必要である。
- ・こどもの人権保護、プライバシー保護の観点から、更衣室やロッカーが必要である。
- ・中学生は体格が大きく、1学級の人数が多いと教室にゆとりのスペースがないため、生徒数を考慮した教室面積が必要である。
- ・小学校校長に学校施設についてアンケートをとった。多かった意見は、「多目的に使用できるよう、広い教室空間がほしい」「更衣室の整備」「トイレの洋式化・乾式化」「プライバシーが確保されたトイレの整備」であった。

■海外の学校施設について

- ・海外（スウェーデン）の事例を日本にそのまま導入することは、教育制度、教員数、スペースの面から難しい。
- ・現状の学校施設の中でも、一人一人のこどもの特性に配慮した居心地の良い空間をつくることなど、できることを多くの学校が取り入れている。各学校の実状に応じ、バランスをとりながら、できることをやっていけばよいのではないかな。
- ・学校教育の考え方、建物、人の配置等の違いを踏まえ、様々な角度から検討し、これからの学校施設の在り方について、どういう理想を描き、整備していくかを考えなくてはいけないと思う。

■まとめ

- ・義務教育学校の独自教科や小・中学校の地域学習を通して、各地域の多彩な地域資源を活用し探究的に学ぶことで、教育内容が充実し、こどもたちと地域とのつながりが深まっている。今後も、学校と地域が、意識的・積極的に関わっていく必要がある。
- ・義務教育学校の整備は、学校再編の一つの選択肢として、整備の可能性を検討していく。全ての学校を義務教育学校にしていくことは難しいため、児童生徒数の推移や各地域の実状を踏まえ、多様な選択肢の中から最適解を探っていく必要がある。
- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることのできる教育環境とする必要があり、一定の集団規模は必要である。
- ・学校施設の整備には、セキュリティやプライバシーへの配慮が必要であり、柔軟な教育活動が展開できる教室空間やトイレの整備など、多角的に検討する必要がある。
- ・外国の学校施設整備の考え方も参考に、福山市の学校施設整備の在り方を検討していく。